

メダカのたんじょう

メダカのたんじょう

メダカのめすは、水草などに、たまごをうみつけます。めすがうんだたまご、おすが出す精子^{せいし}が結びつくことを、受精^{せいじ}といいます。受精したたまごだけが、育って子メダカになります。

受精したたまごを、解剖顕微鏡^{かいぼうけんびきょう}を使って、毎日同じ時刻^{じこく}に観察すると、中の様子が、毎日少しずつ変わっていくのが分かります。はじめは、あわのようなものが見えるだけです。やがて、目ができ、心臓^{しんぞう}が動き始め、血液が流れる様子も見えるようになります。

水温が二十五度くらいになると、たまごは、およそ十日から十一日で、子メダカになって出てきます。

生まれたばかりの子メダカのはらには、ふくらみがあります。この中には、育つための養分が入っています。そのため、子メダカは、生まれてから二、三日は、えさを食べなくても生きていくことができます。

メダカは、夏の間、何度もたまごをうみます。たまごから生まれた子メダカも、やがて大人になり、またたまごをうむのです。

1 たまご 精子^{せいし}が結びつくことを、何といいますか。



2 たまごの中の様子として、本文に書かれていないものはどれですか。

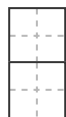
ア 目ができる。

イ 心臓^{しんぞう}が動く。

ウ ひれでおよぐ。

3 水温が二十五度くらいになると、たまごはおよそ何日で子メダカになりますか。

およそ十日から 日



4 子メダカが、生まれてしばらくえさを食べなくても生きられるのは、どうしてですか。

ア はらのふくらみに、養分が入っているから。

イ 水の中の養分をすうから。

ウ 親メダカが運んでくれるから。